

## 「家族(子と親)が幸せになる人権を支援する社会教育事業」

一般社団法人ウインウイン

講演会 「生きる力をデザインする」	「夢みる校長先生」上映会 & 西郷元校長先生講演会	「ゆめバのじかん」上映会 & 松端講師講演会	「子どもの声をどう聞いていますか」桜井講師講演会	「子どもが安心して育つ社会とは」岩倉講師講演会

## 1. 事業が目指すところ

子どもと子育て世代への支援活動を通して、自由な子ども(子ども本来の姿)を創出するキッカケづくりに取り組みます。
公教育という既存常識から発想の転換を図り、「自己決定の原則・個性化の原則・体験学習の原則」を踏まえ精神的幸福度を高めます。地域内のデリケートな問題を抱える当事者(虐待・自殺・いじめ等)や家族に対し、子どもの心の深層に潜む自己否定感情や自己憎悪に「自分のまでいいんだよ」と肯定的メッセージを与え続け、子どもの味方づくりを支援します。
更に、子どもの孤立・孤独を予防する居場所事業を実施し、地域の子どもを中心とした共生社会づくり実現を目指します。

## 2. 活動内容

年月日	活動内容	年月日	活動内容
R7.6.21	「海と空の約束」お話し会 ＆ワークショップ(エコバッグづくり) 講師:西谷 寛(環境カウンセラー)	R7.11.29	「子どもの声をどう聞いていますか？」 ～「がんばれ」が子どもを追い詰める社会へ提言～ 講師:桜井智恵子(関西学院大学教授)
R7.9.15	「子どもの生きる力を育む脳科学的アプローチ」 ～脳と体を知り生きる力を育てる～ 講師:岸田耕二(精神保健福祉士)	R7.12.21	「不登校から学ぶ(親・教師・地域の人にできること)」 ～子どもが安心して育つ社会とは～ 講師:岩倉政城(尚絅学院大学名誉教授)
R7.9.27	「夢みる校長先生」自主上映会 & 講演会 ～非認知的能力でコミュニケーション力を高める～ 講師:西郷元校長先生(世田谷区立桜丘中学校)	R7.8.11 R7.10.13 R8.1.12	絵本づくりワークショップ 絵本講座 手作りバタバタ絵本 手づくり工作(マジックシアター)
R7.10.25	「ゆめバのじかん」自主上映会 & 講演会 ～子供が大切にされ互いに尊重しあえる関係とは～ 講師:松端克文(武庫川女子大学教授)	R7.7.6 R7.12.20	居場所「みんなのてらす」での協働活動 七タイプイベント開催 クリスマスイベント開催 コンサート・ゲーム等 多世代交流イベント実施

## 3. 成果と課題点

(1)成果: 家族支援として、講演会・上映会を通じ公教育・社会教育の重要性と住民参加の地域共生社会づくりを推進しました。
さらに、居場所事業を「みんなのてらす」で、ゆるやかなつながりがもてる交流の場(ワークショップ&協働イベント)として活用。
1)家族と社会教育をテーマにした講演会・フォーラム活動 ( 岸田講師 桜井講師 岩倉講師 )
自分の脳クセ(得意・特異な才能)を知ることが生きる力(自分らしい道を創る力)の原動力になる。幸せは自分らしく役立つこと。 存在承認と関係性が大事。世代を超えた支援と交流場づくり。多様性(生き方&価値観)を認め合う社会づくり(構造変革必要)。 多様性と包摂性を土台に、多様なまで対話を通して共に生きる世界に教育の本質がある。(管理でなく、人間の尊厳を目指す)
2)子ども本来の自由と創造を引き出す自主上映会活動 ( 西郷孝彦講師 松端克文講師 )
子どもファーストな公教育の作り方:「同調圧力」が心の成長を阻害、子どもを信じ自由と愛情で接することが自立の道に繋がる。 ケア(互いの肯定関係)とエンパワーメント(生きる力を高める)が重要。子どもの生きる力と共助の地域力で私たちづくりを。
3)人間の孤立・孤独を予防する「つなぎ役」としての充電人へのケア活動 居場所「みんなのてらす」活用でコミュニティカフェ活動
「海と空の約束」説明後に参加者が個性的なエコバッグを作成。絵本ワークショップを通じ、手づくりから個性や創造性を引き出した。 地域のネットワーク団体同士で協働のイベント開催することによって、地域共生社会づくりの基盤を形成。ファシリテーター役推進。
(2)課題点: 認知的能力から演劇的体験重視能力へ
1)公教育を画一的・伝統的・前例主義で子どもを呪縛するシステムから非認知的能力を高めるコミュニケーション中心の教育へ。 2)新自由主義(能力主義・自己責任論等)によって、勝ち組VS負け組という価値観に社会構造全体が疎遠されている。 3)子どもと教師が漬物樽に入れられて、悲鳴やうめき声を抑え込まれている。市民の自発的な運動により漬物石を取り扱う必要有。

## 4. 今後の展望、成果の活用

1)今後の展望:
非認知的能力を高めるコミュニケーション教育として、地域で演劇的ワークショップを開催。これから新しい時代に向けて多様な価値観のある人たちがともに生きるために、ゆるやかなネットワーク(楽しい共同体)づくりをリベラルアーツから開始します。 子どもの権利を守るアドボカシー事業として、市民運動ネットワークで重層的連帯を形成し、公教育の重しを取り除きます。
2)成果の活用:
居場所事業(J'sカフェ)で地域のゆるやかなつながり場を開設し、ワークショップを軸に交流の輪を展開しました。 社会教育の新しい学びの場を通して、非認知的能力(コミュニケーション力)向上とともに主体的対話的な学びを実践しました。